

河川の品位と河川の愛護運動に就て

正會員 橋 内 德 治

一般に河川の大小を律する尺度といふものは一定して居ないが流域の廣狹、流路の長短、支流の多寡、年總流出量の多少等種々なる要素に依りて定めらる事は云ふまでも無い。大河と稱せらるるものは流域廣く流出率（流出率とは河川の流出量と降水量との比）大にして且流路延長長く其の委川幅廣く水深深く常に満々たる水を湛へて其の威容堂々たる河相を具備するものなりと誰しも考へる、然し叙上の如く形而下的な河状のみよりこれを定むることは決して適正ではなく寧ろ河川の有する内面的な品格を更に織り込み觀念つけるべきにして恰も大人物と稱せらるゝ人間が堂々たる體格と共に貴然たる品格を備ふるを要するものと其の理を同じうするものである。

而して河川品格の貴賤は年間の流量の濶早度、河川の利用度及び立地的河相の良否等によりて略決定せらるゝものにして即ち年間を通じての流量が概わ平均化し而も此の河水が高度に利用せらるゝが如き立地的相貌を具備せるものは貴きとなし反對に雨多ければ忽ち洪水を招き雨少ければ直に渇水に苦しむと云ふ如き常に河川の流量の變遷極り無くその上流路變遷が今日の潮は明日の瀬となるが如き釣變をなし従つて河川の利用よりは寧ろ河川の被害の方が適に大なるものは賤しとなすべきであらう。河川の立地的河相とは例へば上流水域の河川が深山函谷の間を清冽なる水を滾渾と湛へて流下し恰も河川の相貌が其の居處に融け込み最も適應せる姿をあらはすが如きもの或は下流水域の河川が各種産業の開發進展に重要な役割を演ずるが如き洩向の位置にあり、而も豐滿なる河水が悠長に流れ萬帆風を孕んで其の上を輝絡として往來し得る河相を呈するが如きもの、換言すれば立地計畫の策定を最も容易に且つ合理的になし得る位置と河

相とを完備するが如きもの等を指摘するのであつて立地的に何等の利用價値も無く且つ其の居處に適應せざる河川は最も賤しくかの「アラビヤ」のルンマ河の如きは如何に素晴らしい長流であつても一年の大半は流水が無く無毛の砂漠地帯を流下する地域に住するものに於てはどんなに鼻屑目に見ても貴きものとは云ひ難く従つて大河とは稱され難いものである、元來我國の河川は流域廣く、流路又長く支派川を從屬せしめ外面的には大河川の相を呈するものありと雖も内面的には種々なる環境に支配せられて未だ貴顯なるものとは稱され難き實狀たるを以て眞の大河川の列に加入し得ざる憾あり、蓋しこれは河川が立地的には比較的好條件の地位を占む處にあるも原始河川の域を脱せず徒に野生的に放任し居る事實のために河川は常に洪水と渇水との相背馳した河況を呈し天與の資源たるよりは寧ろ國民經濟に恐脅を與ふるの河相を備ふるからである、これは建國前の爲政者の無節制的搾取主義に災せられて河狀の惡化するを憂みず、徒に未雨綢繆益に走りて山河の開墾森林の斫伐を許容し水源の荒廢するを等閑に附せしと共に當時水田經營をなす者漸く多きを加ふるに徒に流水に著しき變化を齎し河川に惡影響を與ふるものありしに不肖爲政者は之が對策を圖置せず無放任に委せ然も河川に關する何等の施策も施さざりし事實に歸因するものであつて一時の僅少なる利に走り百年の國家資源を失ふことを敢て思辨せざりし因果應報に他ならぬのである、斯るが故に往時遼河上に約一萬隻以上の戎克船が輝絡として遠く通遼迄も漕下航したものが其の母體たる河川の惡化に伴ひ凋落の一途を辿り老乾子をして昔日の駭駭たりし夢物語をかこちせしめ或は年を追ひて水災し被害が倍加しつゝある事實に觀しても這般の因果が如何に後の世まで顯現なる應報となつて現るゝ

かは推察し得らるゝことと思はれる、而して今後も尙既往の如く河川に對する何等の施策を行はず放置せらるゝに於ては河川の國家的重要資源たるの貴き存在は認識せられず徒に悪害のみ流す無用の長物として墮せらるゝは國家經濟の上に一夫損失なるを以て宜敷今日より河川の品位を高め我等子孫のために最も貴き遺産として残興し國家永遠の隆盛の基となすべきであるこれには河川の涵蓋をなす以外には方策はない。

然しこの涵蓋たるや云ふは易く行ふは難く且は一朝一夕たる短日月になし得べき業にもあらず、よく國家が事の重要性を認識し徐々に氣水に水源から河口に至る河川全體に互り綜合的河川の涵蓋をなし河川本來の存立目的に關はしむる艱難むべきである、これがためには河川改修を行ふとか、水源の培養をなすとか或は河川の保全を期すべき法の制定をなすとか各般の施策はあるが要は河川の國家性を國民に認識せしめ河川愛護の念を喚起せし以て後世のために有用なる河川資源を貴き贈物として残す如く國民一人一人に銘記せしむべきが必要である。

然る時には河川の改修も水源培養も自ら解決し法の制定も要せず天與の資源は國民利便のために餘す所なく利用せられ其の利益は萬民に享與せられて子孫の繁榮と國

家の興隆を約束づけるものと信じて疑はないものである、即ち「國興れば河川治まり、國衰れば河川荒ぶ」の論はこのことを短句の内に表現したものであつて河川の尺度と國家の盛衰とは密接なる關聯を有することを教へて居るのである、これに關する史實は敢て遠く世界に求めずとも我が國の既往を顧みるならば何人も肯定する所であらう。

そこで國家進展と重大關係を有する河川の國家性を昂揚し國民生活と河川との重要性を認識せしめ以て河川の品位を高めて大河となすを國民運動の一とするは我國の如く河川に未知なる國民に對しては殊に緊要なることと確信する、このため河川の有する國家的資源の至大なるを教へ徒に河伯の住むて河川の迷信的觀念を空際し河川に對する愛護の觀念を徹底的に植ゑつけることは後世の國家及び子孫の繁榮のために國民の義務の一として強調すべきであらうと深く信ずるものである。

やがて國民全體が河川の重要性を認知し河川愛護運動が國民運動の一として展開せられ河川の品位が自ら高めらるゝに於ては國民の一人一人が禹王の業を行ひしものと後世までその遺徳を稱讃せらるゝであらう。

アラスカ公路成る

米國野心の國防道路

アラスカ道路の考へは昔からまつた、それは太平洋國要道路の一部としてである、それはアラスカ、カナダ、合衆國、中米、南米を通ぬるものでオタワ、ワシントンを経てパナマに至る東岸線とクエアメンガス、グアングーア、シヤトル、サンフランシスコ、サンジエゴ、メキシコ・シタイを経てパナマに出るものと二線ある。

南はアエノスアイレスまで結ぶもので南北兩米大陸を制覇せんとする合衆國の野心の露骨な現れといへよう、數年前から度々具體化され前記太平洋岸路線が最後費で後れてゐたが、それが今完成したものと云はれる。従來アラスカと本土の連絡についてはただ應對海軍下の海路によるといふのが米國軍部の考へで、萬一制海權が失はれた場合は一本か二本の道路がよく連絡補給の重任に耐へ得るものではないとしてゐた。

ところが、戰局の進展につれて米國は驚いた、皇軍のアリューシャン進攻でアラスカ基地が脅がされるとき肝腎の海路連絡は非常な危険に曝されるに至つた、彼らが慌て、アラスカ道路を施工したのはかうしたわけだ、五月に起工カオグ、アラスカ間全長千六百マイルで一月二十日開通式を行つたといはれてゐる。(編輯部)